

2-3

主題	夕食後のハーブティーとタクティールケア
----	---------------------

タクティールケア	副題	穏やかにお過ごしいただくために
認知症ケア		

研究期間	6ヶ月	事業所	社会福祉法人 浴風会 南陽園

発表者：片山 茜（かたやま あかね）	アドバイザー：高橋 朋子		
共同研究者：宮川 永美子、木村 綾子、三木 めぐみ			
電 話	03-3334-2159	メール	nanyo@jcom.home.ne.jp
FAX	03-3334-1745	URL	http://yokuhuukai.or.jp/top.htm

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	（福）浴風会は、大正 14 年に関東大震災の被災高齢者の援護を目的に設立された高齢者保健・医療・福祉の総合施設です。特別養護老人ホーム南陽園は昭和 46 年に定員 100 名で開設され、改築後は定員 254 名（内ショートステイ 12 名）となりました。従来型施設で、5 階が利用者 38 名（内ショートステイ 2 名）の認知症高齢者の専門フロアとなっています。
------------------------------	---

《研究前の状況と課題》

一時期、職員の不足や利用者の方々の ADL の低下により、入浴や排泄介助などの介護で精一杯という状態が続いた。身体的・精神的な疲労による体調不良は、職員の欠勤による人手不足に繋がる悪循環となっていた。

職員の補充によりゆとりは出てきたが、一時期の名残として職員優先のケアが定着しつつあり、その状態が職員の不満の増加や意欲の喪失を招いている状況があった。

利用者本位のサービスを提供したい、もっと寄り添うケアをしたいと話し合いをするなかで、対象者の減少などにより中断していた夜間浴の見直しや、勤務時間の変更などを含めた業務改善が課題として挙げられた。

また、新たなケアとしてハーブティーとタクティールケアの導入が提案され、実施方法などを検討した。

《研究の目標と期待する成果》

認知症高齢者の周辺症状として、徘徊、不穏状態などが挙げられる。

ある種のハーブティーは、不安感・興奮状態が緩和されるといわれている。

タクティールケアは、血流が良くなり身体が温まるなどの効果とともに、不安感などの周辺症状の緩和に効果があるとの報告がなされてきている。

当フロアで実施していた夜間浴は、ご利用者からゆっくりと入浴できると好評であり、実際夜間よくお休み頂ける成果が見られていた。

中断していた夜間浴に代え、夕食後の時間を利用してハーブティーとタクティールケアを提供することで、夕食後落ち着かず、なかなかお休み頂けないご利用者に、穏やかにお過ごし頂けるのではないかと考え、導入を決定した。

《具体的な取り組みの内容》

対 象 者：6名（夕方不安な方、不眠の方）

実施期間：平成21年10月27日～

平成22年1月31日

1. 事前調査

- ・平均的な就寝介助時間と入眠確認時間の調査
- ・食後から就寝前の過ごし方の調査。

2. ハーブティーの実践

平成21年10月27日～11月9日

- ・夕食の1時間後を目安に提供する。
- ・安眠効果のあるハーブを提供する。
- ・前後の記録と就寝・入眠時間を記録する。
- ・食後に休まれる方は夕食後に飲んで頂く。

3. タクティールケアの実践

平成21年11月11日～1月31日

- ・それぞれの就寝時間に合わせて実施。
- ・実施前後にバイタルを測定する。
- ・実施した日としない日両方とも記録する。
- ・タクティールケア終了後、そのまま休んで頂けるように居室で実施する。

＊実践当初は19時半までの夜間浴シフトでケアをさせて頂いた。しかし普段の就寝介助時間に合わせた実施が出来ない為、21時までのシフトを作り、夕食後からの2時間をタクティールケアの時間にあてた。

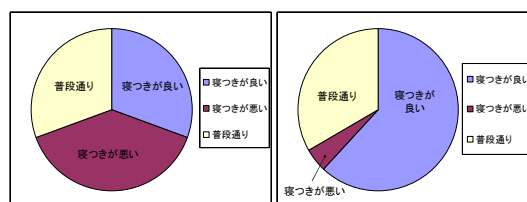
《取り組みの結果と評価》

＜ハーブティーの結果＞

- ①飲まれた直後はリラックスされている。
- ②利尿作用のためか、トイレの訴えや場所が分からず落ち着かないことが増えた。

＜タクティールケアの結果＞

- ①認知症の周辺症状の改善
- ②腸機能への影響
- ③タクティールケア実施の環境の重要性



実施しない日

実施日

タクティールケアに比べ、ハーブティーは入眠への効果はあまり見られなかった。しかしタクティールケアもハーブティーも、高いリラックス効果が見られた。

《まとめ》

タクティールケアの周辺症状の改善や腸機能への影響、ハーブティーのリラックス効果は、就寝前に限らず、対象となった利用者の方以外にも効果的であると考えられる。今後日々の業務を行いながら、いかに継続してケアをしていくか。そのためにどのように改善すべきか検討する必要があると言える。

《提案と発信》

現在21時までの勤務形態を残し、タクティールケアの出来ない職員も、ゆっくり付き添うことが出来ている。更に日中も利用者のADLでグループ分けを行なうなど、ひとつの取組みが「もっとこうしたい」「その為にどうするか」といった改善に繋がっている。利用者の方の為にどうしたいかという意欲と、それを実現する為の改善が、利用者の方の目線に立った、より良いケアに繋がると考えられる。

【メモ欄】追加資料 有 無